



**加藤 a 敦志**  
国際バレーボール連盟  
インストラクター



**杉山 哲平**  
札幌市立北白石中学校  
ヴォレアス北海道U15コーチ

## 日本バレーボール学会 2024 バレーボール ミーティング FIVBインストラクターと考える

### 日本バレーボール指導のアップデート

@北翔大学 & オンライン

2024.8.18(日)

10:00-16:00

日本バレーボール学会主催 2024 バレーボールミーティング

テーマ: 「FIVB インストラクターと考える日本バレーボール指導のアップデート」

概要: 本事業は、バレーボール学会員はもちろんのこと、バレーボールを愛好する選手・コーチ同士が現場で抱える実践的な課題を共有し、互いの活動から学び合う場を創出することで、選手・コーチの継続的な学びの支援を目的としています。また今回は、FIVB（国際バレーボール連盟）のコーチインストラクターとして、FIVBが主催するコーチ養成（資格講習）のコーチコースの講師を世界各地で担当している加藤 a 敦志氏を招聘し、現在の国際的なバレーボール指導の実際を紹介しながら、日本のバレーボール指導との比較から、日本のバレーボール指導のアップデートを図り、日本のバレーボールコーチ全体の資質を向上させることを目的として開催しました。

日 時:2024 年 8月18日(日)10:00～16:00（受付開始 9:30）

主 催:日本バレーボール学会

会場:北翔大学

#### 【ミーティングスケジュール】

| 午前の部（研修教室） |                             | 午後の部（第1体育館） |                             |
|------------|-----------------------------|-------------|-----------------------------|
| 9:30～      | 受付開始                        | 12:45～      | オンコートレクチャー①                 |
| 10:00～     | 開会                          |             | FIVB コーチコース LEVEL 1 の内容から   |
|            | 1. FIVB インストラクターとは          | 14:15～      | オンコートレクチャー②                 |
|            | ー役割と責務ー                     |             | FIVB コーチコース LEVEL 2・3 の内容から |
|            | 2. フィリップ・ブラン氏について           | 15:45～      | 質疑応答・閉会                     |
|            | ー彼の友人として、一同僚・スタッフとしてー       |             |                             |
|            | 3. 今の FIVB の指導の実際とは         |             |                             |
|            | ーFIVB コーチコースの概要（レベルⅠ、Ⅱ及びⅢ）ー |             |                             |
|            | 4. 日本のバレーボール指導への提言          |             |                             |
|            | ー海外から見える風景：私の客観的感想ー         |             |                             |
|            | 5. 質疑応答                     |             |                             |
| 11:45～     | 休憩                          |             |                             |

## <登壇者の紹介>

パネリスト: 加藤 a 敦志 (FIVB コーチインストラクター)

- ・国際バレーボール連盟 (FIVB) コーチインストラクター: インターナショナルコーチの育成
- ・ヨーロッパバレーボール連盟 (CEV) コーチコンベンション 2024 年度スピーカー: U18 以下プレイヤーの育成についてのレクチャー
- ・各カテゴリー男子日本代表チームマネージャー 2017 年～
- ・国際協力機構 (JICA) 海外協力隊版ボール技術専門委員
- ・日本バレーボール協会 (JVA) 体罰防止プロジェクトセットアップスタッフ 2018 年
- ・日本サッカー協会 (JFA) 体罰問題に関するアドバイザー 2022 年

パネリスト: 杉山 哲平 (札幌市立北白石中学校)

- ・札幌市立北白石中学校 教諭 ・ヴォレアス北海道 U15 チームコーチ ・JSPO バレーボールコーチ 4
- ・日本バレーボール学会理事 ・北海道バレーボール協会指導普及部指導者養成部員

総合司会: 永谷 稔 (北翔大学 教授)

- ・日本バレーボール学会理事 ・日本バレーボール協会アンチドーピング委員会主事
- ・JSPO バレーボールコーチ 4

参加者総数: 対面参加者 10 名、オンライン参加者最大数 35 名・申込 61 名

## 【講義】

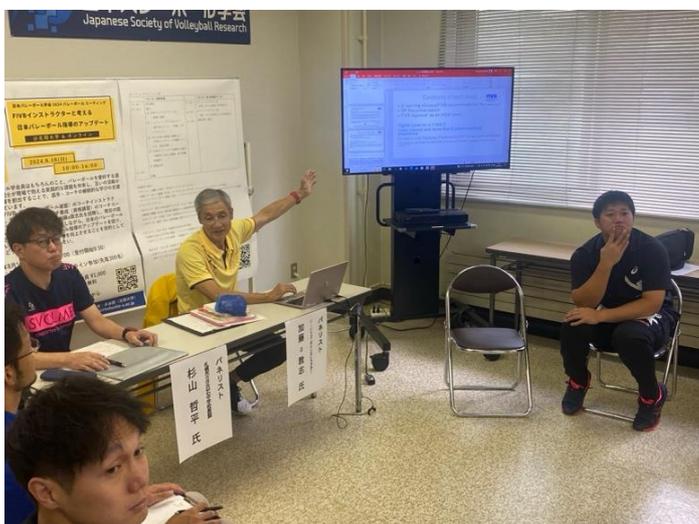
日本の指導者資格のシステムが構築されているが、FIVB コーチシステムは日本ではあまり知られていない。世界的には FIVB コーチの方がメジャーであり一般的である。国を挙げてサポートしているところもあるくらいである。以前から FIVB 講習会は実施されており、日本でも行われていたが、日本人の参加者は稀であり、ほとんどいなかった。それは、費用は高額であることも要因かもしれないが、知られていないことと必要性が示されていなかったことが挙げられる。

それでは、FIVB コーチを持っているとどうなのか？正直なところ、日本では何も変わらない。JSPO 資格はベンチ資格として有効であり、国民スポーツ大会においても準じている。したがって、意味がない資格ではないものの、日本国内では有効性がないと考えられがちではないかと推察する。本来は日本国内でも何らかの意味づけがされるべきである。コーチ 3 (JSPO 資格) 以上であれば FIVB コーチコースの受講者として推薦はされることを考えれば、JSPO 講習内容と擦り合わせがなされればベストである。大きな講習内容に違いがあるかと言われれば、そんなないものの、指導の裏付けや根拠にはなり得、FIVB ではいかにバレーボールが持続できるかに重点が置かれている。レベル 1 では How to play、レベル 2 では How to Teach、レベル 3 では How to Coach といったカタチである。

フィリップ・ブラン氏との繋がりについては、彼が FIVB コーチのトップオブザトップとして指導をしている際、2003 年フランス代表監督時に加藤氏が通訳として入っていたことである。フランス代表の練習を見ると日本のバレーに合っていると直感したようである。彼は積極的にボール出しをしながら、選手とのコミュニケーションを深めたり、コンディションを確認しているようであった。その後、ポーランドのコーチに就任し、ワールドカップで来日した。日本代表には非常に関心を持っており、日本代表監督を外国人監督にとの流れもあった。その時日本代表監督であった中垣内氏が外国人コーチを希望し、矢島強化委員長に直談判したとのこと。ブラン氏はお金（給料）ではなく、あくまで代表監督というポジションがやりたいと熱望したこともあり、その後、日本代表の監督となったことは非常に自然な流れであった。

FIVB コーチコースで最も重要視されているポイントは、ピリオダイゼーションとピーキング、チームづくりのコンセプト（8年間に渡る）であった。そこで、4日スパン、2日（1日半）でクリティカルとフィジカル練習を繰り返し、4年後のオリンピックを念頭にしたサイクルを、年間、月間、週間、日間に落とし込んでいった。代表選手だからこそ、能力が高いからこそその関わり合い方、それが全てである。決して小中高などのチームにも同様に、皆そうすればいいわけではないことは、承知しておいて頂きたい。国際的な指導スタイルとして強調されている部分としては、「Compensation theory」と言い、落として跳ね上げる、元より上がるといった考え方である。加藤氏からみた、日本のバレーボール指導について、日本は何でも揃っているし、何でもやってくれる。一方、海外や途上国はそんなことはなく、たくましさがある。自分で何とかするしかなく、どうしようか考えなければならない。日本は、アジア諸国だけでなく、欧州各国と比較しても恵まれているにも関わらず、基本的なモラルが低下していると感じる。逆に日本はバレーボールをするハードルが高くなってしまっているのではないかとのお話で締めくくられた。

加藤氏のお話では、一ファンや、仮に関係者であって外から見ているだけでは分からなかった部分であり、非常に興味深かった。ブラン氏のどのような点が優れていて結果や改革につながったのかがよく分かり、日本代表のスタイルが大きく変化した理由、要因、原因が垣間見られた。対面参加は少なかった分、座談会形式をとったことで積極的な質問や意見交換がなされた。講義終了後も昼食の時間を惜しんで質問や意見の交換が行われていた。



## 【オンコート】

午後のオンコートレクチャーでは、前半はFIVB コーチコース LEVEL 1 の内容から、後半は LEVEL 2・3 の内容を中心に行われ、午前中の講義において、対面参加者からの指導内容のリクエストを受けて、それらに対応しつつ、オンライン参加者からの質問にも都度応じながら進められた。

### 主なリクエスト

- ・高校男子：レセプションの構築方法 DEVELOPMENT
- ・小学生男女：選手へのフィードバックの方法
- ・中学生男子（選抜チーム）：ブロック ・シニア（Vリーグ）：ブロックからの COUNTER ATTACK
- ・高校生男女：ビギナーのスパイク、特にハイセット、セッターのセットポジション

北白石中学校男子バレーボール部をモデルチームに、北翔大学男女バレーボール部のお手伝いのもと、非常に熱心に且つ丁寧な指導方法の説明や示範が行われた。FIVB コーチコースのすべての内容を伝えることまでは至らなかったが、時間いっぱい十二分の指導が展開され、予定時間を超え、さらには終了後も参加者が納得のいくまで説明やご指導されている姿には、非常に感銘を受けました。





本ミーティングは、学会企画委員会沼田委員長を中心に、開催決定から非常に限られた時間で計画いたしました。学会会員だけでなく、できるだけ多くのバレーボール関係者にとって有益な情報提供、議論の場となればと企画したところです。残念ながら、告知期間が短く、北海道開催ということもあり、対面参加者は限られました。道外からの対面参加者もありました。オンラインの配信も軌道に乗っていることから、今後はハイブリッド開催が利便性の面では定着することと思えますが、やはり対面での受講、オンコートレクチャーの醍醐味は代えられないことでもあります。このあと12月か年明けにはバレーボールセミナーが、年度末には学会大会が慶應義塾大学で、実施・開催予定となっております。企画委員会としても早期の告知、多くの参加を期待するところであります。以上、2024年日本バレーボール学会 バレーボールミーティング報告とさせていただきます。

文責：学会企画委員（永谷稔）



対面参加者全員での記念ショット



両パネリストと会長、副会長および企画委員のショット